

第87期 定時株主総会 招集ご通知

開催日時

平成30年6月26日（火曜日）午前10時

開催場所

滋賀県草津市野路三丁目2番18号
当社本社工場 M's terrace 3階
多目的ホール

会場変更

本総会は、昨年と開催場所を変更しております。
末尾の会場ご案内図をご参照いただき、お間違え
のないようにご注意願います。

株式会社 **メタルアート**

証券コード 5644

目次

■ 第87期定時株主総会招集ご通知	1
■ 株主総会参考書類	3
第1号議案 剰余金処分の件	
第2号議案 株式併合の件	
第3号議案 定款一部変更の件	
第4号議案 取締役7名選任の件	
第5号議案 補欠監査役1名選任の件	
第6号議案 取締役賞与支給の件	
第7号議案 退任取締役に対し退職慰労金 贈呈の件	
■ 添付書類	
事業報告	12
連結計算書類	26
計算書類	29
監査報告書	32

証券コード 5644
平成30年 6 月 5 日

株 主 各 位

滋賀県草津市野路三丁目 2 番 18 号

株式会社 **メタルアート**

代表取締役社長 多 田 修

第87期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社第87期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討いただき、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示くださいます。平成30年 6 月 25 日（月）午後 5 時までに到着するようご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 平成30年 6 月 26 日（火）午前 10 時

2. 場 所 滋賀県草津市野路三丁目 2 番 18 号

当社本社工場 M's terrace 3 階 多目的ホール

開催場所が昨年と異なりますので、末尾の株主総会会場ご案内図をご参照の上、お間違えのないようご注意ください。

3. 会議の目的事項

- 報告事項**
1. 第87期（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）事業報告の内容、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類の監査結果報告の件
 2. 第87期（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）計算書類の内容報告の件

- 決議事項**
- | | | |
|--------------|-------------------|-----|
| 第1号議案 | 剰余金処分の件 | |
| 第2号議案 | 株式併合の件 | |
| 第3号議案 | 定款一部変更の件 | |
| 第4号議案 | 取締役7名選任の件 | |
| 第5号議案 | 補欠監査役1名選任の件 | |
| 第6号議案 | 取締役賞与支給の件 | |
| 第7号議案 | 退任取締役に対し退職慰労金贈呈の件 | 以 上 |

~~~~~  
○当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申しあげます。

○本招集ご通知に際して提供すべき書類のうち、連結計算書類の「連結注記表」及び計算書類の「個別注記表」につきましては、法令および当社定款第15条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト(<http://www.metalart.co.jp/ir/>)に掲載しておりますので、本招集ご通知の提供書類には記載しておりません。なお、当該「連結注記表」及び「個別注記表」は、監査役が監査報告を作成するに際して、また、会計監査人が会計監査報告を作成するに際して、監査をした連結計算書類及び計算書類の一部であります。

○株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイトの「IR情報」のページ(<http://www.metalart.co.jp/ir/>)に掲載させていただきます。

# 株主総会参考書類

## 議案及び参考事項

### 第1号議案 剰余金処分の件

#### 期末配当に関する事項

当期の期末配当につきましては、当期の業績、経営体質の強化及び今後の事業展開等を勘案し、次のとおりといたしたいと存じます。

#### (1) 配当財産の種類

金銭といたします。

#### (2) 株主に対する配当財産の割当に関する事項及びその総額

当社普通株式1株につき金6円

総額 94,521,936円

#### (3) 剰余金の配当が効力を生じる日

平成30年6月27日

## 第2号議案 株式併合の件

### 1. 株式併合を必要とする理由

東京証券取引所を含む全国証券取引所は、全ての国内上場会社の普通株式の売買単位を100株に統一する期限を平成30年10月1日に決めました。当社は、東京証券取引所に上場する企業として、この趣旨を尊重し、当社株式の売買単位である単元株式数を現在の1,000株から100株に変更するとともに、証券取引所が望ましいとする投資単位の水準（5万円以上50万円未満）を維持することを目的として、株式の併合を行うものいたします。

### 2. 株式併合の内容

#### (1) 併合する株式の種類及び割合

当社普通株式について、5株を1株に併合いたしたいと存じます。

なお、株式併合の結果、1株に満たない端数が生じた場合には、会社法の定めに基づき一括して処分し、その処分代金を端数が生じた株主の皆さまに対して、端数の割合に応じて分配いたします。

#### (2) 株式併合の効力発生日

平成30年10月1日

#### (3) 効力発生日における発行可能株式総数

800万株

#### (4) その他

その他手続き上必要な事項につきましては、取締役会にご一任願いたいと存じます。

※株式併合により、株主様がお持ちの当社株式数は、併合前の5分の1に減少することとなりますが、1株当たりの純資産額は5倍となりますので、株式市況の変動など他の要因を除けば、株主様がお持ちの当社株式の資産価値に変動はありません。

第3号議案 定款一部変更の件

(1) 提案の理由

第2号議案「株式併合の件」が承認可決されることを条件として、現行定款第6条（発行可能株式総数）に定める発行可能株式総数を株式併合の割合に応じて減少させるとともに、当社株式の売買単位を100株に変更するため、現行定款第8条（単元株式数）に定める単元株式数を1,000株から100株に変更するものいたします。

なお、本変更については、第2号議案における株式併合の効力発生日である平成30年10月1日をもって効力が発生する旨の附則を設け、その効力発生日をもって本附則を定款から削除するものいたします。

(2) 変更の内容

変更の内容は次のとおりであります。

(下線は変更部分)

| 現 行 定 款                                              | 変 更 案                                                                           |
|------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| (発行可能株式総数)<br>第6条 当会社の発行可能株式総数は、 <u>4,000万株</u> とする。 | (発行可能株式総数)<br>第6条 当会社の発行可能株式総数は、 <u>800万株</u> とする。                              |
| (単元株式数)<br>第8条 当会社の単元株式数は、 <u>1,000株</u> とする。        | (単元株式数)<br>第8条 当会社の単元株式数は、 <u>100株</u> とする。                                     |
| (新設)                                                 | (附則)<br><br>第6条及び第8条の変更は、平成30年10月1日に効力が発生するものとする。<br>なお、本附則は当該変更の効力発生日をもって削除する。 |

## 第4号議案 取締役7名選任の件

本総会終結の時をもって、現任取締役6名全員が任期満了となりますので、取締役7名の選任をお願いしたいと存じます。

取締役候補者は次のとおりであります。

| 候補者<br>番号                                                                                                                                                                              | 氏 名<br>(生年月日)                                                                                                              | 略 歴<br>地位及び担当並びに重要な兼職の状況等                                                                                                                                                                                                         | 候補者の有する<br>当社の株式数 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 1                                                                                                                                                                                      | <br>た だ おさむ<br>多 田 修<br>(昭和29年1月3日)       | 昭和52年4月 ダイハツ工業株式会社入社<br>平成15年3月 同社電子技術部長<br>平成20年1月 同社トヨタ業務部長<br>平成20年6月 同社執行役員<br>平成23年6月 当社専務取締役<br>平成25年6月 当社代表取締役社長（現任）<br>（重要な兼職の状況）<br>株式会社メタルテックス代表取締役社長                                                                   | 46,000株           |
| <b>【取締役候補者とした理由】</b><br>多田修氏は、平成23年6月に専務取締役に就任し、平成25年6月から代表取締役社長として経営全般に関する意思決定及び業務執行の監督を適切に行っております。今後も引き続き、取締役としてグループ全体の経営に対して適切な監督を行い、持続的な成長と企業価値の向上に寄与できる人材と判断したことから取締役候補者といいたしました。 |                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                   |                   |
| ※<br>2                                                                                                                                                                                 | <br>み やけ こう じ<br>三 宅 恆 路<br>(昭和31年7月22日) | 昭和60年7月 ダイハツ工業株式会社入社<br>平成16年4月 同社第一生産技術部エンジン生技室長 兼<br>第一生産技術部主査<br>平成21年5月 P.T. Astra Daihatsu Motor<br>取締役<br>平成26年4月 ダイハツ工業株式会社理事<br>平成26年8月 Daihatsu Perodua Engine<br>Manufacturing Sdn. Bhd.<br>代表取締役社長<br>平成30年4月 当社顧問（現任） | 0株                |
| <b>【取締役候補者とした理由】</b><br>三宅恆路氏は、自動車メーカーでの専門的知識と豊富な経験、幅広い見識を有しております。自動車部門は当社の主力部門であることから、これらの経験と見識を活かし、取締役としてグループ全体の経営に対して適切な監督を行い、持続的な成長と企業価値の向上に寄与できる人材と判断したことから取締役候補者といいたしました。        |                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                   |                   |

| 候補者<br>番 号                                                                                                                                                                                                               | 氏 名<br>(生年月日)                                                                                                                             | 略 歴<br>地位及び担当並びに重要な兼職の状況等                                                                                                                                                                                              | 候補者の有する<br>当社の株式数 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 3                                                                                                                                                                                                                        | <br>あ ら か わ け ん じ<br><b>新 川 健 二</b><br>(昭和32年 8 月 1 日)   | 昭和51年 4 月 当社入社<br>平成20年 6 月 当社執行役員 製造部長<br>平成24年 6 月 当社取締役<br>平成25年 6 月 当社常務取締役 (現任)<br>平成25年11月 PT.METALART ASTRA INDONESIA<br>取締役副社長<br>平成27年 7 月 PT.METALART ASTRA INDONESIA<br>代表取締役社長                             | 12,000株           |
| <b>【取締役候補者とした理由】</b><br>新川健二氏は、平成24年に取締役に就任し、生産支援センターを担当する取締役として職務を適切に行っております。また、同氏は長年にわたり製造部門全般を統括する製造部長を務めてきた経験を持つなど、豊富な知識と経験を有しております。今後も引き続き、取締役としてグループ全体の経営に対して適切な監督を行い、持続的な成長と企業価値の向上に寄与できる人材と判断したことから取締役候補者いたしました。 |                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                        |                   |
| 4                                                                                                                                                                                                                        | <br>と も お か ま さ あ き<br><b>友 岡 正 明</b><br>(昭和42年 7 月 4 日) | 平成 2 年12月 当社入社<br>平成18年 4 月 当社生産管理部長<br>平成25年 6 月 当社執行役員<br>平成26年 3 月 当社グローバル事業部長<br>平成29年 6 月 当社取締役 (現任)<br>平成29年 7 月 PT.METALART ASTRA INDONESIA<br>代表取締役社長 (現任)<br>(重要な兼職の状況)<br>PT.METALART ASTRA INDONESIA代表取締役社長 | 7,000株            |
| <b>【取締役候補者とした理由】</b><br>友岡正明氏は、平成29年に取締役に就任し、当社グループの海外子会社社長として職務を適切に行っております。また、同氏は長年にわたり営業部門を統率してきた経験を持つなど、豊富な知識と経験を有しております。今後も引き続き、取締役としてグループ全体の経営に対して適切な監督を行い、持続的な成長と企業価値の向上に寄与できる人材と判断したことから取締役候補者いたしました。             |                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                        |                   |

| 候補者<br>番号                                                                                                                                                                                                     | 氏 名<br>(生年月日)                                                                                                                  | 略 歴<br>地位及び担当並びに重要な兼職の状況等                                                                                                                           | 候補者の有する<br>当社の株式数 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| ※<br>5                                                                                                                                                                                                        | <br>ふく もと てる ひさ<br>福 本 照 久<br>(昭和45年 6 月24日)  | 平成 8 年 3 月 当社入社<br>平成25年 3 月 当社製造部長<br>平成28年 6 月 当社執行役員（現任）<br>（重要な兼職の状況）<br>株式会社メタルフォージ取締役                                                         | 1,000株            |
| 【取締役候補者とした理由】<br>福本照久氏は、当社で長年にわたり経営企画部門や製造部門等の幅広い業務に携わり、豊富な経験と実績を有しております。これらの経験と実績を活かし、取締役としてグループ全体の経営に対して適切な監督を行い、持続的な成長と企業価値の向上に寄与できる人材と判断したことから取締役候補者いたしました。                                               |                                                                                                                                |                                                                                                                                                     |                   |
| 6                                                                                                                                                                                                             | <br>たけ ばやし みつ ひろ<br>竹 林 満 浩<br>(昭和42年 2 月23日) | 平成 8 年10月 青山監査法人入社<br>平成18年 9 月 竹林公認会計士事務所開設<br>平成19年11月 株式会社プロアクティブ設立、代表取締役<br>社長（現任）<br>平成28年 6 月 当社社外取締役（現任）<br>（重要な兼職の状況）<br>株式会社プロアクティブ代表取締役社長 | 0株                |
| 【社外取締役候補者とした理由】<br>竹林満浩氏は、公認会計士としての専門的知識及び公認会計士事務所の経営者としての豊富で幅広い経験を有しております。平成28年から社外取締役として、当社の経営の重要事項の決定及び業務執行の監督に貢献していただいております。今後も取締役としてグループ全体の経営に対してご提言いただき、当社のガバナンス体制の強化に寄与していただけると判断したことから社外取締役候補者いたしました。 |                                                                                                                                |                                                                                                                                                     |                   |

| 候補者<br>番 号                                                                                                                                                                         | 氏 名<br>(生年月日)                                                                                                                | 略 歴<br>地位及び担当並びに重要な兼職の状況等                                                                                                             | 候補者の有する<br>当社の株式数 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| ※<br>7                                                                                                                                                                             | <br>ふじ い まさ お<br>藤 井 正 大<br>(昭和24年 5 月 7 日) | 昭和59年 4 月 弁護士登録（京都弁護士会）<br>昭和62年 4 月 藤井正大法律事務所開設、所長（現任）<br>平成25年 4 月 京都弁護士会会長<br>平成29年 2 月 京都司法委員会会長（現任）<br>（重要な兼職の状況）<br>藤井正大法律事務所所長 | 0株                |
| 【社外取締役候補者とした理由】<br>藤井正大氏は、弁護士であり、主に会社法・企業法務を専門分野としております。また、弁護士事務所の経営者としての豊富で幅広い経験を有しております。これらの見識と経験を活かし、取締役としてグループ全体の経営に対してご提言いただき、当社のガバナンス体制の強化に寄与していただけると判断したことから社外取締役候補者いたしました。 |                                                                                                                              |                                                                                                                                       |                   |

- (注) 1. ※は新任候補者であります。
2. 各候補者と当社との間には、いずれも特別の利害関係はありません。
3. 竹林満浩氏、藤井正大氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役候補者であります。
4. 竹林満浩氏は、東京証券取引所が定める独立役員の要件を満たしており、本総会にて同氏が選任された場合、引き続き同氏を独立役員として指定する予定であります。また、同氏は平成28年6月より当社の社外取締役に就任しており、その在任期間は、本総会終結の時をもって2年であります。
5. 藤井正大氏は、東京証券取引所が定める独立役員の要件を満たしており、本総会にて同氏が選任された場合、同氏を独立役員として指定する予定であります。
6. 当社は、竹林満浩氏との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、賠償責任限度額は、法令に定める額であります。同氏が選任された場合、当社は同氏との間で、上記責任限定契約を継続する予定であります。
7. 当社は、藤井正大氏が社外取締役に就任した場合、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結する予定です。ただし、賠償責任限度額は、法令に定める額であります。

## 第5号議案 補欠監査役1名選任の件

現監査役 藤原隆三氏が業務遂行困難になった場合に備え、予め補欠監査役1名の選任をお願いいたしたいと存じます。

なお、本議案につきましては、監査役会の同意を得ております。

補欠監査役候補者は次のとおりであります。

| 氏 名<br>(生年月日)                                                                                                                                           | 略 歴<br>地位及び重要な兼職の状況等                                                  | 候補者の有する<br>当社の株式数 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|-------------------|
| <br>やす い ひろむ<br>安 居 弘<br>(昭和35年2月21日)                                  | 昭和57年4月 当社入社<br>平成18年4月 当社総務部長<br>平成24年6月 当社執行役員<br>平成27年6月 当社取締役（現任） | 9,000株            |
| <b>【補欠監査役候補者とした理由】</b><br>安居弘氏は、当社で長年にわたり財務・経理・人事・総務・営業の管理部門全般を統率してきた経験を持つなど、豊富な知識と経験を有しております。これらの経験と実績を活かし、当社の監査業務をより充実させることができると判断し、補欠の監査役候補者といたしました。 |                                                                       |                   |

(注) 1. 候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。

2. 安居弘氏は、当社の取締役を務めておりますが、平成30年6月26日をもって退任する予定であります。

## 第6号議案 取締役賞与支給の件

当期末の取締役4名（社外取締役を除く）に対し、当期の業績等を勘案して、取締役賞与総額11百万円を支給いたしたいと存じます。

なお、各取締役に対する金額は、取締役会にご一任願いたいと存じます。

**第7号議案** 退任取締役に対し退職慰労金贈呈の件

本総会終結の時をもって取締役を退任される安居弘氏に対して、在任中の功労に報いるため、当社所定の基準に従い、相当額の範囲内で、退職慰労金を贈呈いたしたいと存じます。

なお、その具体的な金額、贈呈の時期、方法等は取締役会にご一任願いたいと存じます。

退任取締役の略歴は次のとおりであります。

| 氏名   | 略歴              |
|------|-----------------|
| 安居 弘 | 平成27年6月 取締役（現任） |

以上

## 1. 企業集団の現況に関する事項

### (1) 事業の経過及びその成果

当連結会計年度における我が国経済は、政府の雇用・所得環境の改善が続く中で、企業の設備投資や生産の増加を受け、緩やかな回復を続けました。一方、世界経済は中国を始めアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性による影響が依然として顕在するものの、米国を中心に緩やかに回復しています。

このような経営環境のもと自動車部門においては、国内軽・小型車の販売好調により、堅調に推移し、また、建設機械部門においては、世界的に高需要が続き、特にマイニングを中心とした大型建機の販売好調に加え、国内は排ガス規制車の駆け込み需要により堅調に推移しました。以上の市場環境に加え、鋼材価格の上昇に伴う販売価格へ反映もあり、売上は増加しました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、304億5千6百万円（前年同期比14.9%増）となりました。部門別では、自動車部品は235億8百万円（前年同期比14.0%増）、建設機械部品は57億3千4百万円（前年同期比20.2%増）、農業機械部品は6億4千1百万円（前年同期比27.2%増）、その他部品は5億7千1百万円（前年同期比8.3%減）となりました。

損益面におきましては、売上の増加、グループを挙げての原価低減により、営業利益は12億9千2百万円（前年同期比18.6%増）となりました。一方、インドネシア通貨が円・ドルに対して大きく下落したことによりPT.METALART ASTRA INDONESIA における当社からの円建借入金にかかる為替差損5億1千2百万円の発生により、経常利益は8億8千5百万円（前年同期比22.6%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は4億1百万円（前年同期比41.3%減）となりました。

### (2) 設備投資等の状況

当連結会計年度に実施いたしました設備投資の総額は23億8千6百万円であり、その主なものは、株式会社メタルアート新熱間鍛造工場及び厚生棟の新設であります。

### **(3) 資金調達の状況**

前記(2)の設備投資に要する資金は、自己資金によりまかないました。

### **(4) 対処すべき課題**

当社の主力の自動車業界・建設機械業界ともに今後、新興国市場での地産地消が進み、国内市場は少子高齢化・カーシェアリング等の普及もあり、縮小は避けられません。

そのため、今後はさらなるコスト競争の激化が予測されます。

このような環境化で他社との差別化・事業拡大を図るため、当社グループは「鍛造技術を基軸に完成品として最適提案ができるグローバル部品メーカー」を目指し、鍛造から機械加工までの一貫事業の拡大およびEV化に対応した技術開発をすすめ、良品廉価なものづくりをしっかりとお客様へ提案していくことで競争優位性を確立してまいります。

拡大する海外市場への対応にインドネシア事業をアセアン地区の中心拠点に据え事業拡大に努めます。

また、国内・海外での更なる競争力強化のため、技能伝承を中心としたひとづくりも重要課題として取り組んでまいります。

## (5) 財産及び損益の状況

### ①企業集団の財産及び損益の状況

| 期 別<br>項 目            | 第 84 期<br>(平成27年 3 月期) | 第 85 期<br>(平成28年 3 月期) | 第 86 期<br>(平成29年 3 月期) | 第 87 期<br>(平成30年 3 月期) |
|-----------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 売 上 高 (百万円)           | 25,753                 | 23,469                 | 26,515                 | 30,456                 |
| 経 常 利 益 (百万円)         | 1,629                  | △107                   | 1,144                  | 885                    |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円) | 982                    | △181                   | 683                    | 401                    |
| 1 株当たり当期純利益 (円)       | 62.34                  | △11.49                 | 43.39                  | 25.48                  |
| 総 資 産 (百万円)           | 25,348                 | 22,360                 | 25,185                 | 26,681                 |
| 純 資 産 (百万円)           | 12,122                 | 11,246                 | 11,869                 | 12,350                 |
| 1 株当たり純資産 (円)         | 769.11                 | 713.69                 | 753.33                 | 783.95                 |

(注) 1 株当たり当期純利益は期中平均株式数により、1 株当たり純資産は期末発行済株式の総数により算出しております。また、期中平均株式数、期末発行済株式の総数につきましては自己株式の数を除いて算出しております。

### ②当社の財産及び損益の状況

| 期 別<br>項 目      | 第 84 期<br>(平成27年 3 月期) | 第 85 期<br>(平成28年 3 月期) | 第 86 期<br>(平成29年 3 月期) | 第 87 期<br>(平成30年 3 月期) |
|-----------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 売 上 高 (百万円)     | 25,722                 | 22,320                 | 23,812                 | 27,408                 |
| 経 常 利 益 (百万円)   | 1,506                  | 1,701                  | 802                    | 1,175                  |
| 当 期 純 利 益 (百万円) | 953                    | 153                    | 213                    | 383                    |
| 1 株当たり当期純利益 (円) | 60.49                  | 9.74                   | 13.55                  | 24.35                  |
| 総 資 産 (百万円)     | 22,218                 | 18,735                 | 21,142                 | 21,584                 |
| 純 資 産 (百万円)     | 9,397                  | 9,224                  | 9,404                  | 9,697                  |
| 1 株当たり純資産 (円)   | 596.23                 | 585.40                 | 596.90                 | 615.59                 |

(注) 1 株当たり当期純利益は期中平均株式数により、1 株当たり純資産は期末発行済株式の総数により算出しております。また、期中平均株式数、期末発行済株式の総数につきましては自己株式の数を除いて算出しております。

## (6) 重要な子会社の状況

| 会 社 名                        | 資 本 金     | 当社の出資比率 | 主要な事業内容                   |
|------------------------------|-----------|---------|---------------------------|
| 株 式 会 社 メ タ ル テ ッ ク ス        | 99百万円     | 100%    | 各種部品の機械加工、建設機械用足回り部品の加工組付 |
| 株 式 会 社 メ タ ル フ ォ ー ジ        | 100百万円    | 100%    | 鍛工品の製造、加工                 |
| PT. METALART ASTRA INDONESIA | 1,480万米ドル | 70%     | 鍛工品の製造、加工                 |

**(7) 企業集団の主要な事業内容**

当社グループは、精密型打鍛造専門メーカーとして、自動車、建設機械、農業機械、その他一般産業機械に使用される鍛工品の製造、加工及び販売を主な事業としております。

**(8) 企業集団の主要な営業所及び工場**

|                              |         |                            |
|------------------------------|---------|----------------------------|
| 株式会社メタルアート                   | 本社・工場   | 滋賀県草津市                     |
|                              | 馬 場 工 場 | 滋賀県草津市                     |
| 株式会社メタルテックス                  | 本社・工場   | 滋賀県草津市                     |
|                              | 水 口 工 場 | 滋賀県甲賀市                     |
|                              | 九 州 工 場 | 福岡県朝倉市                     |
| 株式会社メタルフォージ                  | 本社・工場   | 宮崎県東臼杵郡門川町                 |
| PT. METALART ASTRA INDONESIA | 本社・工場   | インドネシア国 西ジャワ州カラワン県 KⅡC工業団地 |

**(9) 従業員の状況**

①企業集団の従業員数

| 区 分         | 従 業 員 数 (名) |
|-------------|-------------|
| 全社共通（鍛工品事業） | 674 (466)   |

(注) 1.従業員数は就業人員であり、他社への出向者は含んでおりません。  
2.臨時従業員数は（ ）内に年間の平均人員を外数で記載しています。

②当社の従業員数

| 従業員数（名）   | 前期比増減       | 平均年齢（歳） | 平均勤続年数（年） |
|-----------|-------------|---------|-----------|
| 302 (154) | 11名増 (14名増) | 40.3    | 13.4      |

(注) 1.従業員数は就業人員であり、他社への出向者は含んでおりません。  
2.臨時従業員数は（ ）内に年間の平均人員を外数で記載しています。

## (10) 主要な借入先

| 借入先           | 借入金残高 |
|---------------|-------|
|               | 百万円   |
| 株式会社滋賀銀行      | 1,322 |
| 株式会社りそな銀行     | 1,140 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 620   |
| 株式会社鹿児島銀行     | 500   |

## 2. 会社の株式に関する事項（平成30年3月31日現在）

(1) 発行済株式の総数 15,753,656株（自己株式33,254株を除く）

(2) 株主数 1,395名

(3) 大株主

| 株主名                       | 当社への出資状況 |       |
|---------------------------|----------|-------|
|                           | 持株数      | 持株比率  |
|                           | 千株       | %     |
| ダイハツ工業株式会社                | 5,185    | 32.91 |
| 株式会社メタルワン                 | 1,289    | 8.18  |
| 株式会社ゴーシュ                  | 641      | 4.07  |
| 株式会社神戸製鋼所                 | 635      | 4.03  |
| 犬塚好次                      | 577      | 3.66  |
| 株式会社滋賀銀行                  | 500      | 3.17  |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口） | 343      | 2.18  |
| 株式会社ケイエムコーポ               | 303      | 1.92  |
| 株式会社りそな銀行                 | 300      | 1.90  |
| 北愛知リース株式会社                | 257      | 1.63  |

(注) 持株比率は自己株式を除き、小数点以下第3位を四捨五入して表示しています。

## 3. 会社の新株予約権等に関する事項

該当する事項はありません。

## 4. 会社役員に関する事項

### (1) 取締役及び監査役の氏名等（平成30年3月31日現在）

| 地 位     | 氏 名     | 担当及び重要な兼職の状況                                                                                              |
|---------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 代表取締役社長 | 多 田 修   | [重要な兼職の状況]<br>株式会社メタルテックス代表取締役社長                                                                          |
| 常務取締役   | 新 川 健 二 | 生産支援センター 担当                                                                                               |
| 取 締 役   | 安 居 弘   | グローバル事業部、管理統括室 担当                                                                                         |
| 取 締 役   | 友 岡 正 明 | [重要な兼職の状況]<br>PT. METALART ASTRA INDONESIA代表取締役社長                                                         |
| 取 締 役   | 古 賀 康 友 | [重要な兼職の状況]<br>株式会社メタルワン特殊鋼 代表取締役社長                                                                        |
| 取 締 役   | 竹 林 満 浩 | [重要な兼職の状況]<br>株式会社プロアクティブ 代表取締役社長                                                                         |
| 常勤監査役   | 藤 原 隆 三 | [重要な兼職の状況]<br>株式会社メタルテックス 監査役<br>株式会社メタルフォージ 監査役<br>PT. METALART ASTRA INDONESIA 監査役                      |
| 監 査 役   | 京 田 靖   | [重要な兼職の状況]<br>ダイハツ工業株式会社 執行役員<br>株式会社浅野歯車工作所 非常勤監査役<br>株式会社ダイハツビジネスサポートセンター 取締役<br>ダイハツビルディング株式会社 代表取締役社長 |
| 監 査 役   | 藤 田 敏 之 | [重要な兼職の状況]<br>ダイハツディーゼル株式会社 常務取締役                                                                         |

- (注) 1. 平成29年6月27日開催の第86期定時株主総会終結の時をもって、取締役杉野安彦氏は任期満了により退任いたしました。
2. 平成29年6月27日開催の第86期定時株主総会終結の時をもって、監査役中脇康則氏は辞任により退任いたしました。
3. 取締役 古賀康友氏及び取締役 竹林満浩氏は社外取締役であります。
4. 監査役 京田靖氏及び監査役 藤田敏之氏は社外監査役であります。
5. 取締役 竹林満浩氏及び監査役 藤田敏之氏は、東京証券取引所が定める独立役員として、同取引所に届出を行っております。

6. 当社は執行役員制度を導入しており、平成30年3月31日現在の執行役員の体制及び担当は、次のとおりであります。

| 地 位     | 氏 名     | 担 当                                             |
|---------|---------|-------------------------------------------------|
| 執 行 役 員 | 松 藤 栄 治 | 馬場工場、水口工場及び九州工場 担当                              |
| 執 行 役 員 | 高 橋 啓 樹 | 生産支援センター長                                       |
| 執 行 役 員 | 福 本 照 久 | 人材育成センター長 兼 品質保証部、品質管理部、<br>工務室、設備保全室及び製造技術室 担当 |
| 執 行 役 員 | 竹 村 好 正 | 本社工場 工場長                                        |
| 執 行 役 員 | 宇 野 章   | 技術部長                                            |

7. 平成30年4月1日付にて、次のとおり選任がありました。

| 地 位     | 氏 名     | 担 当              |
|---------|---------|------------------|
| 執 行 役 員 | 甲 斐 利 明 | 株式会社メタルフォージ常務取締役 |
| 執 行 役 員 | 溝 井 辰 雄 | 管理統括室長           |

## (2) 当事業年度に係る取締役及び監査役の報酬等の総額

取締役6名 109,066千円  
(うち社外取締役1名) (2,400千円)  
監査役1名 12,400千円

- (注) 1. 上記取締役に対する報酬等の総額には、第87期定時株主総会において決議予定の役員賞与11,000千円(取締役4名)が含まれております。
2. 上記の報酬等の総額には、当事業年度に係る役員退職慰労引当金繰入額が含まれております。
3. 上記のほか、平成29年6月27日開催の第86期定時株主総会決議に基づき、退任取締役1名に対し役員退職慰労金7,900千円を支給しております。なおこの金額には、過年度並びに当事業年度の事業報告において記載した役員退職慰労金の繰入額7,300千円が含まれております。

### (3) 社外役員に関する事項（平成30年3月31日現在）

#### ①取締役 古賀 康友氏

##### ア. 重要な兼職先と当社との関係

株式会社メタルワン特殊鋼は、当社の大株主である株式会社メタルワンの子会社であり、当社の主要な仕入先であります。

##### イ. 当事業年度における主な活動状況

当事業年度開催の取締役会8回のうち8回出席し、専門的見地から当社の経営について貴重な指摘、意見を頂いております。

#### ②取締役 竹林 満浩氏

##### ア. 重要な兼職先と当社との関係

株式会社プロアクティブと当社の間には重要な取引関係はありません。

##### イ. 当事業年度における主な活動状況

当事業年度開催の取締役会8回のうち7回出席し、専門的見地から当社の経営について貴重な指摘、意見を頂いております。

#### ③監査役 京田 靖氏

##### ア. 重要な兼職先と当社との関係

ダイハツ工業株式会社は、当社の大株主であり、当社の主要な販売先であります。

株式会社浅野歯車工作所は、当社の販売先であります。

株式会社ダイハツビジネスサポートセンターは、当社の仕入先であります。

ダイハツビルディング株式会社と当社の間には重要な取引はありません。

##### イ. 当事業年度における主な活動状況

平成29年6月27日就任以来、取締役会6回のうち6回出席し、また、監査役会11回のうち11回出席し、当社の経営上有用な指摘、意見を頂いております。

#### ④監査役 藤田 敏之氏

##### ア. 重要な兼職先と当社との関係

ダイハツディーゼル株式会社は、当社の販売先であります。

##### イ. 当事業年度における主な活動状況

当事業年度開催の取締役会8回のうち8回出席し、また、監査役会15回のうち15回出席し、当社の経営上有用な指摘、意見を頂いております。

#### (4) 責任限定契約の概要

当社は、取締役 古賀康友氏、竹林満浩氏、並びに監査役 京田靖氏、藤田敏之氏との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償責任限度額は、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額であります。

## 5. 会計監査人に関する事項

### (1) 会計監査人の名称

PwCあらた有限責任監査法人

### (2) 責任限定契約の内容の概要

該当する事項はありません。

### (3) 当事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額

27,000千円

### 当社及び当社子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額

27,000千円

- (注) 1. 監査役会では、直近2連続事業年度の監査時間と報酬額の実績推移を確認のうえ、第87期の監査予定時間及び報酬見積額の妥当性を検証した結果、会社法第399条に準じ、会計監査人の報酬同意を行っております。
2. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬の額を区分しておりませんので、上記の金額には金融商品取引法に基づく監査の報酬等の額を含めております。

### (4) 子会社の監査に関する事項

海外に所在する当社の子会社は、PwCあらた有限責任監査法人以外の公認会計士または監査法人が監査をしています。

### (5) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

会計監査人が、次の各事項に該当すると認められる場合、監査役会は、その事実に基づき当該会計監査人の解任または不再任の検討を行い、解任または不再任が妥当と判断した場合は、監査役会規則に則り「会計監査人の解任」または「会計監査人の不再任」を株主総会の付議議案として提出いたします。

判断するための事項

- ①会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると判断される場合
- ②会社法、公認会計士法等の法令違反による懲戒処分や監督官庁からの処分を受けた場合
- ③会計監査人の監査品質、品質管理、独立性、総合的能力等の観点から監査を遂行するに不十分であると判断した場合

### (6) その他の事項

当社及び当社子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益は、上記(3)に記載する以外にはありません。

## 6. 業務の適正を確保するための体制の整備に関する事項

当社の業務並びにその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するための体制の整備について、平成27年5月25日開催の取締役会で決議された「内部統制システムの基本方針」は次のとおりであります。

### 1. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ①メタルアートグループ経営理念やメタルアートグループ行動指針等に基づき、各部門で法令や定款及び社会通念に沿った行動を行うよう周知徹底する。なお、法令等遵守状況については経営会議に報告される。
- ②当社及び当社子会社のコンプライアンスに関わる問題及び疑問点に関しては、監査室を連絡先とする相談窓口（社員の声）を通じて、情報の早期把握及び解決を図る。

### 2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役会議事録等重要な書類については別途定める社内規定に基づいて保存年限を定め保存する。取締役及び監査役は、常時、これらの情報を閲覧できるものとする。

### 3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社を取り巻く事業上のリスク等の責任部署を定め、特に安全環境・品質・火災等の事業上のリスクについてはリスクを評価し、適切な対応を図り、リスク管理を行う。

### 4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

社長は取締役会の承認を得て毎年経営計画を策定する。経営会議で利益計画の進捗状況をフォローアップし、適時に取締役会に報告する。社長は経営計画を最も効率的に達成するように組織編制を行うとともに、各組織の指揮命令系統を明確にし、職務権限に関する社内規定等により部門責任者に権限を附与する。

### 5. 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- ①取締役や監査役の派遣等を通じて連携を取り、子会社からは毎年事業計画の提出をうけ、当該内容について経営方針など協議を行うとともに、子会社の業務執行状況については社内規定に基づき、随時確認する。
- ②当社は、子会社でのコンプライアンス活動の状況を定期的にヒアリングし、必要に応じて当社の監査室やリスク分野ごとの担当部署等による監査・指導を実施する。

6. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

監査役の職務の執行を補助するため、必要に応じて補助者をおくことができる。

7. 前号の使用人の取締役会からの独立性に関する事項及び当該使用人に対する監査役の指示の実効性の確保に関する事項

監査役より監査業務に必要な命令を受けた補助者は、その命令に関して、取締役の指揮命令を受けないものとする。監査役の補助者の人事評価や人事異動については監査役の意見を聴取のうえ決定する。

8. 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制及び当該報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

- ①監査役は取締役会及び経営会議等の重要な会議に出席し、必要に応じて意見を表明する。
- ②当社の各取締役は、著しい損失や重大なコンプライアンス違反の発生のおそれがある場合は、担当取締役は監査役に遅滞なく報告を行う。当社は、当社の子会社の各取締役が、当社グループに重大な影響を及ぼすおそれのある事実を発見したときは直ちに、直接間接を問わず当社の監査役に報告する体制を整備する。
- ③監査役はいつでも当社及び当社子会社の取締役に対して報告を求めることができる。
- ④「社員の声」の担当部署である監査室は、提言内容等について、定期的に当社の監査役に対して報告する。
- ⑤当社は、当社及び当社の子会社の監査役へ報告を行った、当社及び当社の子会社の役員及び使用人に対し、関係する社内規程等で、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止する。

9. 監査費用等の処理に係る方針に関する事項

当社は、監査役の職務の執行に必要な費用に関して、毎年、監査役からの申請内容に基づき予算を設ける。

10. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は社内関係部署・会計監査人等との意思疎通を図り、情報の収集や調査にあたっては、取締役及び関係部署はこれに協力する。監査の実施にあたり必要と認めるときは、外部の弁護士、公認会計士その他の外部のアドバイザーを活用する。

## 7. 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社の業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は次のとおりであります。

### 1. 内部統制システム全般について

取締役会では、業務執行の決定・監督を行うとともに取締役会の権限委譲のもと、迅速な対応が必要とされる事業促進に関しましては、常勤役員、部門責任者及び子会社代表者で構成する経営会議を定期的開催し、タイムリーな経営対応を図るとともに、社内各部門及び子会社の業務執行状況をチェックしております。

監査役会につきましては、監査役3名（うち社外監査役2名）の監査役体制による監査を実施するとともに、取締役会のほか、経営会議、内部統制委員会等の重要な会議に出席し、また稟議書等を常時閲覧することにより、監査の実効性の向上を図っております。

また、必要に応じて代表取締役、各部門責任者並びに会計監査人と会合を行う機会を確保し、監査に必要な意見交換を実施しております。

### 2. リスク管理体制について

社長を委員長とし、常勤役員、部門責任者及び子会社代表者を委員とする「内部統制委員会」を設置し、機密・情報管理、コンプライアンス管理体制の整備、J-SOX法に基づく内部統制制度の整備、輸出管理体制の整備など、全社的な内部統制体制拡充に取り組んでおります。また、個々の統制やリスク管理、コンプライアンスが必要な分野は、各部門の本来業務としての統制活動に加えて、「全社安全衛生委員会」、「全社環境管理委員会」及び「労使協議会」等の諸活動を通じて、よりきめ細かな統制活動を実施しております。

### 3. 内部監査の実施について

「内部監査チーム」による内部監査を実施し、経営効率の向上、経営監視機能の強化、法令順守の徹底に取り組んでおり、社長直属の監査室を設け、内部監査の強化を図っております。

また、「公益通報（社員の声）規程」の定めに従い、監査室を連絡先とする相談窓口を通じて、問題の早期発見と改善措置に効果を上げております。

## 8. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

### 1. 基本的な考え方

社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的な団体及びそれら団体が関係する企業とは、取引や寄付等の利益供与行為を始め一切の付き合いを行わず、組織として毅然とした態度で対応する姿勢を貫くことを基本方針としています。

### 2. 整備状況

当社の反社会的勢力への対応を統括する部署を管理統括室と定め、反社会的勢力と関係を遮断するために組織として対応しています。また、反社会的勢力による不当要求や働きかけに対しては、直ちに担当部署に報告・相談する体制を整備しています。

警察が主催する連絡会等に参加するなど、平素より警察、顧問弁護士並びに外部の関連団体との連携を図り、反社会的勢力への対応に関する指導を受けています。

対応部署において、警察及び外部の関連団体と連携することにより、反社会的勢力に関する情報を収集、管理し、社内及び関係会社に対しての注意を喚起しています。

以 上

# 連結貸借対照表

(平成30年3月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目               | 金 額               | 科 目                | 金 額               |
|-------------------|-------------------|--------------------|-------------------|
| <b>(資産の部)</b>     |                   | <b>(負債の部)</b>      |                   |
| <b>流動資産</b>       | <b>14,882,161</b> | <b>流動負債</b>        | <b>13,559,505</b> |
| 現金及び預金            | 2,660,025         | 買掛金                | 2,830,531         |
| 受取手形及び売掛金         | 4,160,070         | 電子記録債権             | 4,756,389         |
| 電子記録債権            | 2,936,128         | 短期借入金              | 3,572,000         |
| 製品                | 356,842           | リース負債              | 10,095            |
| 仕掛品               | 1,278,781         | 未払費用               | 680,401           |
| 原材料及び貯蔵品          | 2,453,103         | 未払法人税等             | 230,792           |
| 繰延税金資産            | 152,717           | 賞与引当金              | 376,248           |
| その他の              | 884,490           | 役員賞与引当金            | 12,000            |
|                   |                   | その他の               | 1,091,047         |
| <b>固定資産</b>       | <b>11,799,532</b> | <b>固定負債</b>        | <b>772,078</b>    |
| <b>(有形固定資産)</b>   | <b>11,341,975</b> | 長期借入金              | 110,000           |
| 建物及び構築物           | 3,425,482         | リース負債              | 7,918             |
| 機械装置及び運搬具         | 4,496,849         | 繰延税金負債             | 29,390            |
| 工具器具備品            | 333,935           | 役員退職慰労引当金          | 140,652           |
| 土地                | 2,574,286         | 退職給付に係る負債          | 443,083           |
| リース資産             | 14,855            | 資産除去債務             | 25,234            |
| 建設仮勘定             | 496,566           | その他の               | 15,800            |
| <b>(無形固定資産)</b>   | <b>43,061</b>     | <b>負債合計</b>        | <b>14,331,584</b> |
| ソフトウェア            | 34,468            | <b>(純資産の部)</b>     |                   |
| その他の              | 8,592             | <b>株主資本</b>        | <b>12,242,990</b> |
| <b>(投資その他の資産)</b> | <b>414,494</b>    | 資本金                | 2,143,486         |
| 投資有価証券            | 172,088           | 資本剰余金              | 1,641,063         |
| 繰延税金資産            | 97,747            | 利益剰余金              | 8,468,750         |
| その他の              | 153,788           | 自己株式               | △10,310           |
| 貸倒引当金             | △9,130            | <b>その他の包括利益累計額</b> | <b>107,117</b>    |
|                   |                   | その他有価証券評価差額金       | 62,580            |
|                   |                   | 為替換算調整勘定           | 74,776            |
|                   |                   | 退職給付に係る調整累計額       | △30,238           |
|                   |                   | <b>非支配株主持分</b>     | <b>—</b>          |
| <b>資産合計</b>       | <b>26,681,693</b> | <b>純資産合計</b>       | <b>12,350,108</b> |
|                   |                   | <b>負債・純資産合計</b>    | <b>26,681,693</b> |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しています。

# 連結損益計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目             | 金 額     |                  |
|-----------------|---------|------------------|
| 売上高             |         | 30,456,660       |
| 売上原価            |         | 27,383,291       |
| 売上総利益           |         | <b>3,073,368</b> |
| 販売費及び一般管理費      |         | 1,780,694        |
| 営業利益            |         | <b>1,292,674</b> |
| 営業外収益           |         |                  |
| 受取利息及び配当金       | 13,571  |                  |
| その他の            | 113,048 | 126,619          |
| 営業外費用           |         |                  |
| 支払利息            | 12,212  |                  |
| その他の            | 521,319 | 533,531          |
| 経常利益            |         | <b>885,762</b>   |
| 特別損失            |         |                  |
| 固定資産処分損         | 30,013  | 30,013           |
| 税金等調整前当期純利益     |         | <b>855,748</b>   |
| 法人税、住民税及び事業税    | 459,141 |                  |
| 法人税等調整額         | △4,763  | 454,378          |
| 当期純利益           |         | 401,370          |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 |         | <b>401,370</b>   |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しています。

## 連結株主資本等変動計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位：千円)

|                         | 株 主 資 本   |           |           |         |            |
|-------------------------|-----------|-----------|-----------|---------|------------|
|                         | 資本金       | 資本剰余金     | 利益剰余金     | 自己株式    | 株主資本合計     |
| 当期首残高                   | 2,143,486 | 1,641,063 | 8,161,917 | △ 9,453 | 11,937,014 |
| 連結会計年度中の変動額             |           |           |           |         |            |
| 剰余金の配当                  | —         | —         | △94,537   | —       | △94,537    |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益     | —         | —         | 401,370   | —       | 401,370    |
| 自己株式の取得                 | —         | —         | —         | △856    | △856       |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額（純額） | —         | —         | —         | —       | —          |
| 連結会計年度中の変動額合計           | —         | —         | 306,832   | △856    | 305,975    |
| 当期末残高                   | 2,143,486 | 1,641,063 | 8,468,750 | △10,310 | 12,242,990 |

|                         | その他の包括利益累計額          |              |                  |                       | 非支配株主持分 | 純資産<br>合 計 |
|-------------------------|----------------------|--------------|------------------|-----------------------|---------|------------|
|                         | その他<br>有価証券<br>評価差額金 | 為替換算<br>調整勘定 | 退職給付に係る<br>調整累計額 | その他の<br>包括利益<br>累計額合計 |         |            |
| 当期首残高                   | 57,848               | △ 44,218     | △ 81,046         | △ 67,416              | —       | 11,869,598 |
| 連結会計年度中の変動額             |                      |              |                  |                       |         |            |
| 剰余金の配当                  | —                    | —            | —                | —                     | —       | △94,537    |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益     | —                    | —            | —                | —                     | —       | 401,370    |
| 自己株式の取得                 | —                    | —            | —                | —                     | —       | △856       |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額（純額） | 4,731                | 118,995      | 50,808           | 174,534               | —       | 174,534    |
| 連結会計年度中の変動額合計           | 4,731                | 118,995      | 50,808           | 174,534               | —       | 480,510    |
| 当期末残高                   | 62,580               | 74,776       | △30,238          | 107,117               | —       | 12,350,108 |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しています。

# 貸借対照表

(平成30年3月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目               | 金 額               | 科 目                     | 金 額               |
|-------------------|-------------------|-------------------------|-------------------|
| <b>(資 産 の 部)</b>  |                   | <b>(負 債 の 部)</b>        |                   |
| <b>流 動 資 産</b>    | <b>12,498,109</b> | <b>流 動 負 債</b>          | <b>11,362,785</b> |
| 現 金 及 び 預 金       | 2,220,208         | 電 子 記 録 債 務             | 3,840,848         |
| 受 取 手 形           | 37,748            | 買 掛 金                   | 3,049,314         |
| 電 子 記 録 債 権       | 2,936,128         | 短 期 借 入 金               | 3,072,000         |
| 売 掛 金             | 3,622,031         | リ ー ス 債 務               | 4,756             |
| 製 品               | 173,454           | 未 払 金                   | 174,564           |
| 仕 掛 品             | 745,964           | 未 払 費 用                 | 397,579           |
| 原 材 料 及 び 貯 蔵 品   | 1,234,162         | 未 払 法 人 税 等             | 187,149           |
| 前 渡 金             | 46,669            | 賞 与 引 当 金               | 225,200           |
| 繰 延 税 金 資 産       | 93,139            | 役 員 賞 与 引 当 金           | 12,000            |
| 関 係 会 社 短 期 貸 付 金 | 298,000           | そ の 他                   | 399,372           |
| 未 収 入 金           | 925,161           |                         |                   |
| そ の 他             | 165,441           | <b>固 定 負 債</b>          | <b>523,935</b>    |
| <b>固 定 資 産</b>    | <b>9,086,480</b>  | 長 期 借 入 金               | 110,000           |
| <b>(有形固定資産)</b>   | <b>4,132,053</b>  | リ ー ス 債 務               | 5,952             |
| 建 物               | 1,567,681         | 退 職 給 付 引 当 金           | 254,073           |
| 構 築 物             | 111,200           | 役 員 退 職 慰 労 引 当 金       | 120,000           |
| 機 械 装 置           | 779,166           | 資 産 除 去 債 務             | 18,109            |
| 車 両 運 搬 具         | 11,962            | そ の 他                   | 15,800            |
| 工 具 器 具 備 品       | 152,569           | <b>負 債 合 計</b>          | <b>11,886,720</b> |
| 土 地               | 1,224,623         | <b>(純 資 産 の 部)</b>      |                   |
| リ ー ス 資 産         | 9,915             | <b>株 主 資 本</b>          | <b>9,635,289</b>  |
| 建 設 仮 勘 定         | 274,933           | 資 本                     | 2,143,486         |
| <b>(無形固定資産)</b>   | <b>20,214</b>     | 資 本 剰 余 金               | 1,641,063         |
| ソ フ ト ウ エ ア       | 13,873            | 資 本 準 備 金               | 1,641,063         |
| そ の 他             | 6,341             | 利 益 剰 余 金               | 5,861,049         |
| <b>(投資その他の資産)</b> | <b>4,934,212</b>  | 利 益 準 備 金               | 96,981            |
| 投 資 有 価 証 券       | 172,088           | そ の 他 利 益 剰 余 金         | 5,764,068         |
| 関 係 会 社 株 式       | 199,900           | 別 途 積 立 金               | 5,003,000         |
| 関 係 会 社 長 期 貸 付 金 | 5,414,166         | 繰 越 利 益 剰 余 金           | 761,068           |
| 前 払 年 金 費 用       | 99,770            | 自 己 株 式                 | △10,310           |
| そ の 他             | 190,845           | <b>評 価 ・ 換 算 差 額 等</b>  | <b>62,580</b>     |
| 貸 倒 引 当 金         | △1,142,557        | そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金 | 62,580            |
| <b>資 産 合 計</b>    | <b>21,584,589</b> | <b>純 資 産 合 計</b>        | <b>9,697,869</b>  |
|                   |                   | <b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b>  | <b>21,584,589</b> |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しています。

# 損益計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目          | 金 額     |            |
|--------------|---------|------------|
| 売上高          |         | 27,408,551 |
| 売上原価         |         | 25,407,715 |
| 売上総利益        |         | 2,000,836  |
| 販売費及び一般管理費   |         | 1,510,352  |
| 営業利益         |         | 490,484    |
| 営業外収益        |         |            |
| 受取利息及び配当金    | 246,452 |            |
| その他の         | 629,614 | 876,066    |
| 営業外費用        |         |            |
| 支払利息         | 11,318  |            |
| その他の         | 180,036 | 191,355    |
| 経常利益         |         | 1,175,195  |
| 特別損失         |         |            |
| 固定資産処分損      | 30,013  |            |
| 関係会社貸倒引当金繰入額 | 462,059 | 492,072    |
| 税引前当期純利益     |         | 683,122    |
| 法人税、住民税及び事業税 | 305,844 |            |
| 法人税等調整額      | △6,383  | 299,461    |
| 当期純利益        |         | 383,661    |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しています。

# 株主資本等変動計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位：千円)

|                         | 株 主 資 本   |            |             |            |            |             |             |         |             |
|-------------------------|-----------|------------|-------------|------------|------------|-------------|-------------|---------|-------------|
|                         | 資本金       | 資本剰余金      |             | 利益剰余金      |            |             |             | 自己株式    | 株主資本<br>合 計 |
|                         |           | 資 本<br>準備金 | 資本剰余金<br>合計 | 利 益<br>準備金 | その他利益剰余金   |             | 利益剰余金<br>合計 |         |             |
|                         |           |            |             |            | 別 途<br>積立金 | 繰越利益<br>剰余金 |             |         |             |
| 当期首残高                   | 2,143,486 | 1,641,063  | 1,641,063   | 96,981     | 5,003,000  | 471,944     | 5,571,925   | △ 9,453 | 9,347,022   |
| 当期変動額                   |           |            |             |            |            |             |             |         |             |
| 剰余金の配当                  | —         | —          | —           | —          | —          | △94,537     | △94,537     | —       | △94,537     |
| 当期純利益                   | —         | —          | —           | —          | —          | 383,661     | 383,661     | —       | 383,661     |
| 自己株式の取得                 | —         | —          | —           | —          | —          | —           | —           | △856    | △856        |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額（純額） | —         | —          | —           | —          | —          | —           | —           | —       | —           |
| 当期変動額合計                 |           |            |             |            |            | 289,123     | 289,123     | △856    | 288,266     |
| 当期末残高                   | 2,143,486 | 1,641,063  | 1,641,063   | 96,981     | 5,003,000  | 761,068     | 5,861,049   | △10,310 | 9,635,289   |

|                         | 評価・換算差額等             |                | 純資産<br>合 計 |
|-------------------------|----------------------|----------------|------------|
|                         | その他<br>有価証券<br>評価差額金 | 評価・換算<br>差額等合計 |            |
| 当期首残高                   | 57,848               | 57,848         | 9,404,871  |
| 当期変動額                   |                      |                |            |
| 剰余金の配当                  | —                    | —              | △94,537    |
| 当期純利益                   | —                    | —              | 383,661    |
| 自己株式の取得                 | —                    | —              | △856       |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額（純額） | 4,731                | 4,731          | 4,731      |
| 当期変動額合計                 | 4,731                | 4,731          | 292,997    |
| 当期末残高                   | 62,580               | 62,580         | 9,697,869  |

（注）記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しています。

# 連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書 謄本

## 独立監査人の監査報告書

平成30年5月18日

株式会社メタルアート  
取締役会 御中

### PwCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 田 邊 晴 康 ㊞  
業務執行社員  
指定有限責任社員 公認会計士 加 藤 真 美 ㊞  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社メタルアートの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

#### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。

監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社メタルアート及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 会計監査人の監査報告書 謄本

## 独立監査人の監査報告書

平成30年5月18日

株式会社メタルアート  
取締役会 御中

### PwCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 田 邊 晴 康 ㊞  
業 務 執 行 社 員

指定有限責任社員 公認会計士 加 藤 真 美 ㊞  
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社メタルアートの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第87期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

#### 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 監査役会の監査報告書 謄本

## 監 査 報 告 書

当監査役会は、平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第87期事業年度の取締役の職務執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

### 1. 監査役会及び監査役の監査方法及びその内容

- (1)監査役会は、当事業年度における監査方針・監査計画を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等の職務の執行状況や事業運営の状況について、取締役会付議事項をはじめその他重要事項に関する意思決定の内容を中心に意見交換を実施いたしました。また会計監査人から監査の実施状況や監査結果等について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2)各監査役は、監査役会が定めた監査役監査基準及び当事業年度の監査方針・監査計画に準拠し、取締役及びその他の使用人等と意思疎通を図り、情報収集及び監査環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施いたしました。
  - ①取締役会及びその他の重要会議に出席し、取締役等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、常勤監査役が子会社の監査役を兼務しており、取締役会に出席するとともに、子会社の取締役等と意思疎通及び情報交換を図り、必要に応じて子会社から事業内容の報告を受けました。また、会計監査人による往査への立会あるいは往査結果報告会に出席し、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
  - ②事業報告に記載されている取締役の職務執行の法令及び定款への適合並びに会社及び企業集団の業務の適正を確保するための体制（会社法施行規則第100条第1項及び第3項で規定される体制）整備では、良質な企業統治体制の確立に向けた内部統制システムの適正な構築・運用が不可欠であり、内部統制システムの重要性に対する取締役の認識及び構築・運用に向けた取組みの状況並びに取締役会の監督状況等の「統制環境」を監査上の重要な着眼点として、監査役会におけるテーマ監査出席・取締役会を含む重要会議出席・取締役や部門長よりの現況聴取・子会社往査等を基本として監査を実施いたしました。
  - ③会計監査人からは、事前に監査計画、会計監査人の職務の遂行に関する事項（会社計算規則第131条各号に基づく事項）及び独立性に関する事項についての説明を受けた上で、その内容に沿って監査実施状況を監視及び検証するとともに監査結果の報告を受け、必要に応じて説明を求めました。さらに常勤監査役が適宜に会計監査人と意思疎通を図り、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているか、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、確認いたしました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1)事業報告及びその附属明細書の監査結果

- ①事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②取締役の職務執行に関しては、子会社等に関する職務を含め、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務執行についても、指摘すべき事項は認められません。さらに内部統制システムの構築・運用状況については、経営環境の変化に対応した取組みが継続的に行われているものと認めます。

### (2)計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人「PwCあらた有限責任監査法人」の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3)連結計算書類の監査結果

会計監査人「PwCあらた有限責任監査法人」の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成30年5月22日

株式会社メタルアート 監査役会

常勤監査役 藤 原 隆 三 ㊞

社外監査役 京 田 靖 ㊞

社外監査役 藤 田 敏 之 ㊞

〈メ 毛 欄〉

[illegible]

〈メ 毛 欄〉

[illegible]

# 株主総会会場ご案内図

## 会場

滋賀県草津市野路三丁目2番18号 電話：077-563-2111（代表）  
当社本社工場 M's terrace 3階 多目的ホール

## 交通

電車でのアクセス

### 東京方面から

京都まで新幹線利用、米原・長浜方面行きのJR琵琶湖線に乗り換え、南草津駅下車 徒歩約15分

### 大阪方面から

米原・長浜方面行きのJR琵琶湖線で南草津駅下車 徒歩約15分

※お車でのご来場はお控えくださいますようお願い申し上げます。



南草津駅西口より  
専用シャトルバスをご用意しております

第1便 9：00発

第2便 9：30発

（乗車時間約5分）

